

<p>■ 松阪牛</p> <p>○ 松阪牛コーナー扉絵</p> <p>○ 畑からパン永田牧場</p> <p>○ 永田牧場外観</p> <p>○ 中で牛の世話をする永田さん</p> <p>○ 牛の餌を運ぶ永田さん</p> <p>○ 牛の餌やり</p> <p>○ 餌を食べる可愛い牛</p> <p>○ 話す永田さん</p> <p>工 ○ 但馬牛の資料的映像加</p> <p>○ 繋がれた牛2頭</p>	<p>22:32</p> <p>22:37</p> <p>22:44</p> <p>22:50</p> <p>23:34</p>	<p>N 日本で最も有名なブランド牛(ぎゆう)。</p> <p>N それは松阪牛(まつさかうし)と言っても過言ではないでしょう。</p> <p>N 永田牧場。</p> <p>N こちらにも沢山の松阪牛(まつさかうし)が。</p> <p>N 永田憲明さんは松阪牛(まつさかうし)の品評会、松阪牛共進会(まつさかにくうしきょうしんかい)で優勝経験もある畜産農家。この日も黙々と牛の世話をしています。</p> <p>「全部で70ちよつとかな?今昔は松阪牛って言ったら全部兵庫県の牛が松阪牛やったんですよ。それ以外は全部松阪牛と違っただけですよ」</p> <p>N 兵庫県の北部に位置する但馬(たじま)地方。ここで育てられるのは、血統の守られた但馬牛(たじまうし)。かつては、この地の牛を育てただけが、松阪牛(まつさかうし)と呼ばれていたとのこと。</p> <p>N 永田さんは、但馬牛(たじまうし)を</p>
--	--	---

<p>○話す永田さん</p> <p>○牛のインサート</p>		<p>「まあだいたい最近の優勝しとる牛は、体重で680前後、まあ上が多いな、最近な。で横から見たら真四角に見える。毛が一杯生えてるとか、ツノの形とか、日本全国どこ行っても、そんなん言ってることはないでさ、松阪の伝統やわな、ツノの形まで見るっていうのは。」</p> <p>N ある秋の日。 トラクターで畑へと向かう永田さん。</p> <p>N これから寒くなる前に、牛の餌となる牧草刈りを行ないます。 北海道の酪農などとは違い、脂ののった力強い牛に育てる為には運動量も管理をして、小屋で丁寧に育てるのが良いと言います。</p> <p>N 作業を終えると、1頭の牛を見せてくれました。</p> <p>「この子を出そうと思いますけど。。。まあそうですね、ポリウム感があって、背筋はまっすぐ、幅があって、深みもある。皮膚の柔らかさとか、毛の感じとか、綺麗な感じに仕上がってますんで、今回出そうかと思ったんですけどね」</p>
<p>○話す永田さん</p> <p>○トトラクターで畑に向かう永田さん</p> <p>○畑に入っていく</p> <p>○牧草を刈る</p> <p>○永田さんの表情</p> <p>○牧草ロール</p>	<p>24:12</p> <p>24:18</p>	
<p>○永田牧場の牛舎外観</p> <p>○永田さんについていく</p> <p>○話す永田さん</p>	<p>24:40</p>	<p>買い付け、 松阪牛共進会 (まつさかにくうしきようしんかい) で優勝することを目標に、 畜産を行なっています。</p>

○牛の毛をブラッシングする永田さん	25:06	N 普段通り、特別なことはしないと 言っていました。が、 牛の毛並みを整えるその姿には、 牛への愛情が垣間見えます。
○早朝の永田牧場 ○トラックに牛を載せる ○出発するトラック	25:19	N 早朝。 牛をトラックに乗せ、出かけていく 永田さん。
○松阪家畜市場 看板 ○市場外観ロング ○牛の綱を持つ永田さん	25:31	N やってきたのは、松阪家畜市場。 (まつさかかちくしじょう) この日は、松阪肉牛共進会 (まつさかにくうしきょうしんかい) の予選が行われます。
○審査風景ロング ○毛並みに触る審査員	25:42	N 体重測定を終えると、審査員が 1頭1頭、毛並みに触って 確認するなど、厳正に審査。
○緊張した面持ちの永田さん	25:51	N この時ばかりは、緊張の面持ち。
○審査の様子	25:56	N 審査結果の連絡までは、 およそ1週間。 永田さんの緊張も まだ続きそうです。
○話す永田さん		「これは審査員の決めることなんです、 まあ結果待つっただけですね。」
○永田牧場ロング	26:14	N そして、無事一時審査を通過。
○牛の世話をする永田さんの姿に音声をインサート		「8時半くらい、8時くらいやと思うんで すけど、牛の体重測定と体高測定があつ て、で審査が9時くらいから、9時か9時 半くらいから。。。まあとにかく毎年の

優勝目指してはありますんでね」

○朝の暗い永田牧場 ○松阪牛まつり ○運び込まれる牛たち ○牛舎で世話をする永田さん	26:42	N いよいよ松阪肉牛共進会 (まつさかにくうしきょうしんかい)の当日を迎えました。 会場には、 一次審査を通った牛たちが、 続々と運び込まれてきます。
○牛の準備をする永田さん	27:00	N 牛舎には、準備をする永田さんの姿が。 どことなく落ち着かない様子に見えます。
○松阪牛の半纏を着て話す永田さん	27:10	N いつもより 饒舌(じょうぜつ)なのは、 やはり緊張の表れでしょうか？
○審査ロング	27:20	N いよいよ審査が始まりました。
○手で触れながらチェックする審査員	27:24	N 一次審査と同様に、 毛並みやツノを手で触れながら チェック、 じっくりと確認しながら、 審査が進んでいきます。
○永田さんと牛、審査員の中ロング ○話し合う審査員	27:36	N 永田さんの育てた渾身(こんしん)の1頭。 審査員たちの評価は どうなのでしょう？
○牛舎で浮かない表情の永田さん	27:49	N 牛舎に戻った永田さん。 なぜかちよつと浮かない表情です。
○話す永田さん		「いやわかってるわかってる。行けない。

○牛舎に一人佇む永田さん	28:04	<p>もっわかっているから大丈夫。」</p> <p>N そう言うって、牛舎の脇に一人立ち尽くします。</p>
○黒落ち	28:09	<p>N そして。</p>
○優秀賞1席の牛	28:13	<p>N 第66回松阪肉牛共進会（まつさかにくうしきょうしんかい）の優秀賞1席は、</p>
○賞状を受け取る畜産農家		<p>残念ながら別の牛に決定し、永田さんの2連覇の夢は潰えて（ついでて）しました。</p>
○セリに入ってくる優秀賞1席の牛	28:26	<p>N 審査会の後に行われた初セリでは、優秀賞1席のこの松阪牛は、どんとんと値段が上がり。。。</p>
○3千3百10万円の表示板	28:37	<p>N その価格は、なんと3千3百万円を超えました。</p>
○松阪牛まつり雑観	28:48	<p>N 来場した人々に</p>
○片付けをする永田さん		<p>松阪牛（まつさかうし）の美味しさを知ってもらうため、同時開催されている松阪牛（まつさかうし）まつり。その賑わいから少し離れた静かな牛舎に、片付けを行う永田さんの姿が。</p>
○話す永田さん		<p>「また来年に向けて、やるだけですからうちは。今日が終わりの始まりですから」</p>
○但馬市	29:16	<p>N この日が終わりでもあり、始まりでもある。</p>
○牛舎の牛をチェックする		<p>N その言葉の通り、12月、</p>

<p>永田さんの様子</p> <p>○牛のお尻からパンアップ 永田さんの様子</p> <p>○牛の状態をきく永田さん</p>	<p>29:28</p>	<p>N 永田さんの姿は、兵庫県の但馬家畜市場（たじまかちくじょう）にありました。</p> <p>N これぞ！という納得のいく牛を買い付けるため、現地の方と対話しながら、目の前の牛の未来の姿を想像します。</p>
<p>○セリに参加する永田さん</p> <p>○セリの様子</p> <p>○セリを見つめる永田さん</p> <p>○永田さんの表情寄り</p>	<p>29:42</p> <p>29:47</p>	<p>N じっくりと下見をした後、セリに参加。</p> <p>N 松阪牛（まつさかうし）という最高のブランドの中で、さらに最高の1頭を育て上げたい。伝統の「美し（うまし）」「ブランドを追求する永田さん。その目は、もう未来を見据えています。</p>
<p>○英虞湾の風景</p> <p>○様々な人のコラージュ</p>	<p>30:04</p> <p>30:14</p>	<p>N 神の威光に守られるかのように人々の営みが連綿（れんめん）と続く「美し国（うましくに）」「三重県。</p> <p>N そこには、文化を守り未来へつなぐ、伝統を受け継ぎ守り続ける、そうした人々の姿がありました。</p>
<p>○磯部地区の収穫時期を迎えた水田</p>	<p>30:30</p>	<p>N 秋、御田植祭が行われた磯部町の水田も収穫の時を迎えていました。</p>

○ 英虞湾の夕景		
○ 稲穂のロング	31:04	<p>僕には、そんな風に 思えてならないのです。</p>
○ 収穫作業大ロング ○ ことうべを垂れる稲穂	30:52	<p>N 谷さんの田んぼでことうべを垂れる 稲穂。 この稲穂も「美し国(うましくに)」 に生まれた感謝を、 ことうべを垂れて示している。</p>
○ 収穫作業	30:40	<p>N こちらの谷さんも、磯部地区で 米作りに携わって、 28年のベテラン農家。</p>